

広坂の雰囲気をよく見守る照明

顧客の声

薄暗くて危険な感じがする！
雰囲気の良い広坂を！

解決策

歩道を1つの空間と考えて
タスクアンビエント照明にする。

3種類の照明器具を使い分ける事によって
全体の照度を一定に保つ。

色々な照明とシステムを時間や場所によって
使い分け効果的に照明。

メイン照明



メイン照明は歩道全体を照らす
照明で夜中は人感知システム
により照度が変化するのでドラ
イバーに影響がないように車道
側にはカバーをつける

感知センサー



夜間など人通りが少ない場合にメ
イン照明が通常より暗くなる。
人がセンサーを通過するとメイン
照明の人感知システムが反応しメ
イン照明が通常の状態まで明るく
なる

サブ照明

メイン照明の間に設置する
メイン照明の補助照明で石
垣に設置し床面を照らす



埋め込み式照明

旧県庁の出入り口付
近など照明が置けな
い場所に道路に埋め



込み取り付ける

メイン照明の人感知システム



- ①歩行者が少なくなる真夜中は省エネモードになり通常より暗くなる。
- ②人感知センサーを通過すると、感知した照明と前後1つの照明が通常まで明るくなる。
- ③通過したあと1分後に省エネモードまで暗くなる。

まとめ

3つの照明をタスクアンビエント照明システムにより全体的に
歩道が明るくなると共に歩道の強弱をつけることができる。

メイン照明の人感知システムを導入する事によって夜間電力の
省エネルギー化を図ることが出来る。

また、前方の照明が点く事によって
歩行者を前へ誘導する事が出来る。

金沢工業大学
2004年度 工学設計Ⅱ
プロジェクト名: 広坂の雰囲気をよくする景観照明
クラス番号: AP14
チーム番号: 12
チーム名: チュッパチャップス
チームメンバー: 竹村寿生 長野貴史 深川明彦
前川孝真 山岸英子 吉澤憲泰
指導教員名: 下川雄一